

■青木昆陽 儒者・蘭学者。救荒用作物としての甘藷を研究、将軍吉宗に認められて幕府に出仕し、“蘭学の祖”に。

あおきこんよう

吉保大老格・1698＝ 江戸の商人の子。

富士宝永噴火1707＝ 9歳：

徳川綱吉没・1709＝11歳：

徳川吉宗将軍1716＝18歳：

・・・・・・ 1719＝21歳：京都の儒者伊藤東涯の門に学び、

・・・・・・ 1722＝24歳：帰府して開塾。

・・・・・・ 1725＝27歳：

享保大飢饉・1732＝34歳：\*<享保の大飢饉>を目の当たりにして、救荒用の作物として甘藷(サツマイモ)に注目。

・・・・・・ 1734＝36歳：\_「甘藷之記」刊。

昆陽蕃藷考・1735＝37歳：\*「蕃藷考」を著して幕府に上書。将軍徳川吉宗にとりあげられ、小石川薬園内に土地をあてがわれ、薩摩より取り寄せた甘藷の試作を始める。甘藷栽培の普及に大きな貢献。

・・・・・・ 1737＝39歳：「経済纂要」成る。

・・・・・・ 1738＝40歳：「草廬雑談」(正編)成る。

出船没始 1739＝41歳：\*書物方に挙げられ、全国諸所の古記録の調査に従事することになり、

・・・・・・ 1740＝42歳：\_甲斐に派遣される一方、幕命により、オランダ語の学習を始める。

・・・・・・ 1741＝43歳：武蔵の古文書調査を命ぜられる(次いで、信濃・駿河・甲斐・遠江)。

公事方御定書1742＝44歳：「対客夜話」成る。

・・・・・・ 1743＝45歳：

梅岩没・・・・ 1744＝46歳：\_青木昆陽「和蘭話訳」成る。

徳川吉宗隠居1745＝47歳：「和蘭勸酒歌訳」成る。\_「和蘭貨幣考」、

菅原伝授十・1746＝48歳：「和蘭文字略考」(再修本)成る。\_「国家金銀銭譜」などは、田沼意次の税制改革に影響を与え、

義経千本桜・1747＝49歳：評定所の儒者となる。

忠臣蔵・・・・ 1748＝50歳：「一夕話」成る。

・・・・・・ 1749＝51歳：\_「和蘭文訳」(第1集)成り、以下毎年続集を著し、第10集に至り、

徳川吉宗没・1751＝53歳：

・・・・・・ 1752＝54歳：

この間、\_蘭学を志し始めた前野良沢が弟子入り、杉田玄白らとの「解体新書」翻訳を契機に、蘭学が世の中に展開して行くことので、まさに、“蘭学の祖”と言えよう。

大岡忠光没・1760＝62歳：

・・・・・・ 1761＝63歳：

・・・・・・ 1763＝65歳：「昆陽漫録」成る。

忠臣蔵大当り1766＝68歳：「続昆陽漫録」成る。

明和事件・・・・ 1767＝69歳：\*書物奉行に昇進したが、

・・・・・・ 1769＝71歳：\_流行性感冒により、没した。